

もう離婚だ、と何度つぶやいたことでしょう。そのたびに思いとどまったのは、あなたがいい人だから。そして、そのつぶやきが聞こえないところにいるから。

あなたが関西に行つてから、もう十年以上経ちます。まったく、よく我慢してきたものです。いえ、あなたがではなく、私からです。

あなたの志が果たされるのであれば、それが一番。そう思つて、じつと待ち続けてきた私です。そのために自分が犠牲になっているとか何とかいうことは、何より自分がみじめになるから、努めて考えないようにして。

だけど、それもそろそろ限界です。会えば今でもうれしいし、気持ちも落ち着く。だからなおさら、離れていることがつらい。とにかく、私は寂しいんです。

やせっぽちのくせに、あなたは妙に辛抱強いから、私みたいに弱音を吐くことはない。だけど、私はあなたの弱音を聞きたいです。そうすれば、つらいのは私だけじゃないと思つて、少しは気持ちが悪くなるような気がする。もう駄目とか、しんどいとか。一つ

佳 作

くらい愚痴を言つたつて、罰なんか当たりません。

ああ、でも実際にそんなことになったら、私はきつと、あなたを励ましてしまうのでしよう。まだやれる、頑張れる、なんて言つて。我ながら、馬鹿かしらと思つてしまうけれど。

結局、私たちつて破れ鍋に綴じ蓋なべなのかな。二人とも世渡り下手で、どこか世間の規格からずれている。だからいつまでも貧乏で、一緒に暮らすこともできない。

でも、そういう二人だから、今までもつたのかもしれない。たとえ破れ鍋でも、綴じ蓋だけよりは、ずっとマシ。そういうことにしておいて、私はこれからも待ちましよう。

多くは期待できないと分かっているから、一つだけ注文。体には気をつけて。あなたももうすぐ不惑なんだし、何かあつても、すぐには駆けつけてあげられないんだから。それだけ。お願いします。

\*学を成すべく一人関西に旅立つた夫を待つて十数年。先が見えない不安でおしつぶされそうな昨今です。